

2017年九州北部豪雨災害調査団  
先遣隊調査速報

～北川下流域(福岡県朝倉市杷木志波地区)～

水工学委員会調査団 団員  
東京理科大学 二瓶泰雄

# 調査概要

- ・調査日: 2017(H29)年7月12日
- ・調査対象: 朝倉市杷木志波地区(北川下流)
- ・調査項目: 痕跡水深・水位(±土砂堆積厚)



# 地点①(本陣橋)





- 本陣橋より上流を見る.
- 本陣橋そばの流木の撤去が進められていた.

# 本陣橋(発災前)



- 川幅約15m
- 両岸：コンクリート護岸
- 単断面河道



# 発災翌日の流木堆積状況(本陣橋)



[時事通信](#)より転載 (2017年7月6日12:42撮影)

- ・大量の流木が本陣橋に捕捉. 流木は北川右岸側にも堆積.
- ・流木と土砂により北川の河道閉塞が発生.



痕跡水深：0.6[m]

痕跡水位：34.01  
[T.P.m]

痕跡種類：  
家の壁に泥

# 地点② 右岸側家屋





痕跡水深: 1.6[m]  
痕跡水位: 35.91[T.P.m]

- ・家屋のほぼ一階部分が土砂で埋まる.
- ・その上に流木が堆積.

# 地点③ 右岸側ビニールハウス





痕跡水深: 0.7[m]  
痕跡水位: 35.77[T.P.m]

- ・ビニールハウス上流側に草木が堆積.
- ・その下に土砂も堆積.
- ・ビニールは流出した模様.

# 地点④ 神田橋

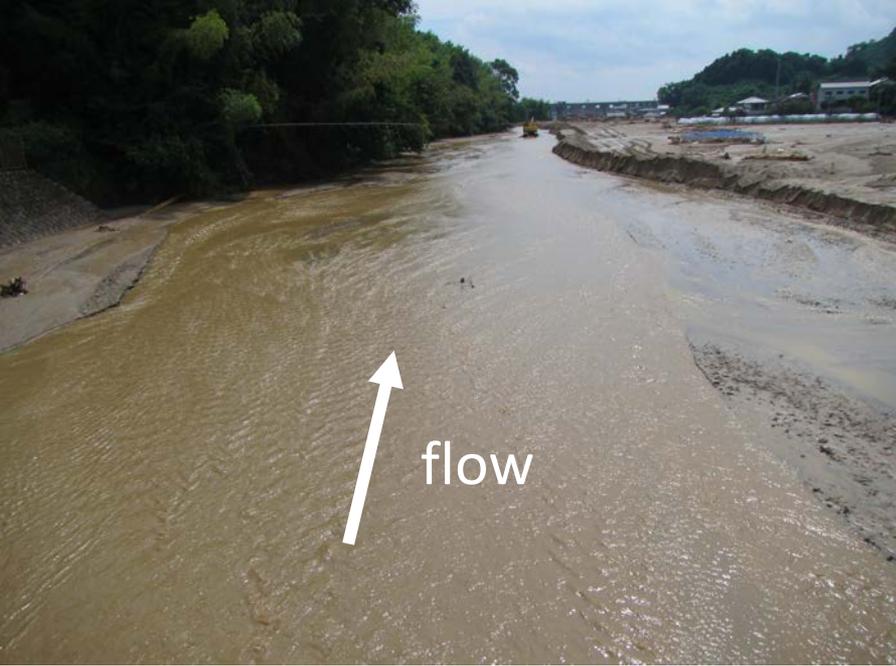




- ほぼ流木の捕捉なし(撤去されたか?)
- 土砂堆積は顕著.

痕跡水深: 0.5[m]

痕跡水位: 39.92[T.P.m]



- 護岸は埋没
- 川幅は拡大, 河床上昇



- 川幅約25m
- 左岸：護岸有

Google ストリートビューより

# 地点⑤ 左岸側





痕跡水深: 0.8[m]  
痕跡水位: 34.92 [T.P.m]

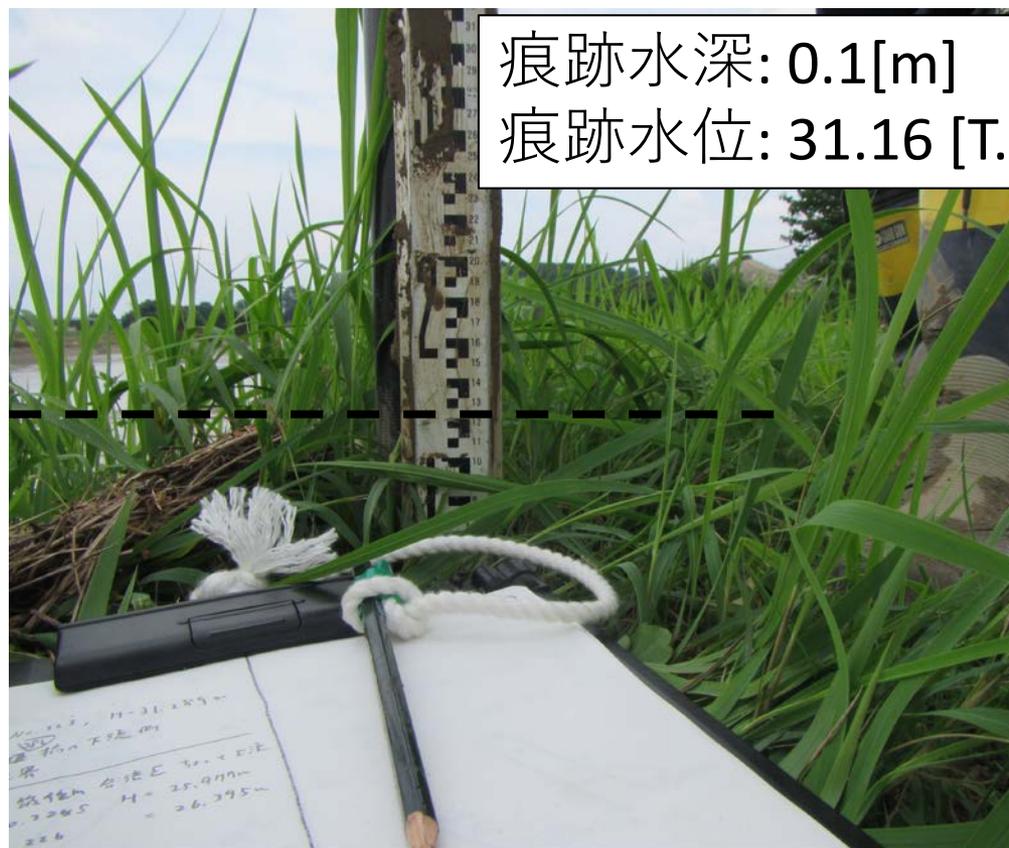
- ・土砂堆積顕著，流木ほぼ無し
- ・この辺りの左岸側民家の浸水無し.

# 地点⑥ 筑後川合流点





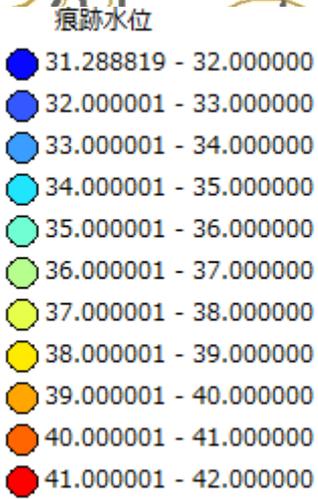
- ・筑後川本川堤防天端に痕跡有
- ・この辺りの畑の浸水有



痕跡水深・水位，土砂堆積厚

# 痕跡水位・水深と土砂堆積深

痕跡水位 : [m]  
 痕跡水深 : [m]  
 土砂堆積 : [m]

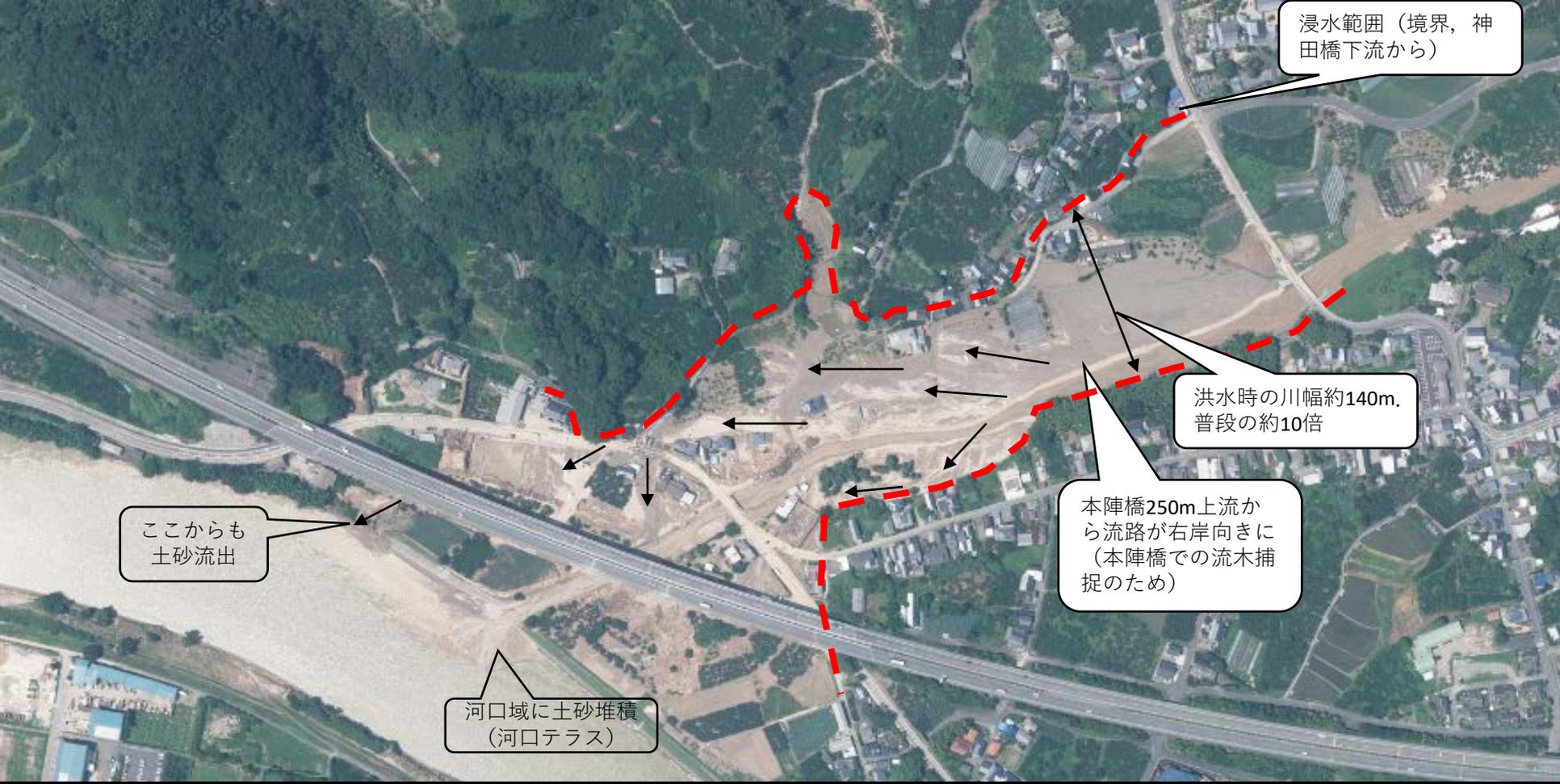


土砂堆積厚は、発災後の地盤高とDEM（発災前）の差を取ったもの（暫定値）

## <分かったこと>

- ・本陣橋から神田橋にかけて、痕跡水位は**34～36[T.P.m]**となり、緩やかな勾配。本陣橋より下流側では急な勾配（流木が橋に堆積したことが要因）。
- ・痕跡水位は左岸<右岸の大小関係。
- ・土砂堆積厚は最大約**3m**
- ・痕跡水深は、発災前の地盤高を基準とすると、最大**4.5m**程度。

航空写真より(国土地理院)



浸水範囲（境界，神田橋下流から）

洪水時の川幅約140m.  
普段の約10倍

本陣橋250m上流から流路が右岸向きに  
（本陣橋での流木捕捉のため）

ここからも土砂流出

河口域に土砂堆積  
（河口テラス）